

年祭前墓前祭2

これの所を千代の納めどころと 他の理の子達と共に その古い衣をお鎮め申しました○代会長故△△△刀自の御墓の御前に慎んで申し上げます

汝刀自は昭和三十年長男○○の○代会長就任のお運びを喜ばれ 更に昭和六十年初孫の私が○代会長に任命されるという光栄に浴され その間三十年の長きに亘って親会長と慕われつゝ昭和六十三年○月○日九十二歳という長命にて親神様のふところにお帰り下さいましたが それから早くも十年の歳月が流れ去りました

この墓前祭の後一同神殿に寄り集い十一時からおつとめ学び引き続いて祖霊社の御前で午後一時から十年祭を執り行わせて頂きます

思い返せば汝刀自は昭和十八年三月○日 大教会長より“関東へ道を”との指示を受けられ 丹波から東京に出られた東本の初代中川よし先生を心に抱き せめて遅咲きの桜であっても鮮かに咲いてみたいと願って二十六日おぢばから 横浜へと文字通り単身布教に踏み切られました 奇しくも昭和六十年真柱様が親しくお入り込みを下され お迎えの玄関先にて汝刀自と握手をされ 諒々お言葉を頂いた後 客間にて“元一日”の揮毫を賜りましたことは 汝刀自にとって来世へのこよなき花道であったと称えずにはおられません

過ぐる横浜での汝刀自のたすけ一条の道は五十五年に及んでおりますが その間に数々のよふぼくを産み育てられた許かりでなく その理の子達が理の孫を授かる布教師にまで丹精の真実を尽くされた事を 私達一同改めて心に体し 今後のにをいがけおたすけに一層拍車をかけて参りますが 親神様教祖が思し召し下された真正の平和世界はまだ／＼遠く どうか汝刀自は来世 より広くより大きく御活躍下され 陽気ぐらしの実をより一層深めた御多幸の人生を歩まれますよう一同と共に慎んでお祈り申し上げます